



第62回 The 62nd Annual Meeting of Japanese Society of Clinical Chemistry

# 日本臨床化学会年次学術集会

ランチ  
セミナー  
2

2022年 9月 30日 (金) 12:10 ~ 13:00



会場

第3会場 (富山県民会館「304」)

## 小児アトピー性皮膚炎における 新規体外診断薬の開発

座長

**植木 重治**

先生

秋田大学大学院医学系研究科  
総合診療・検査診断学講座 教授

演者

**出原 賢治**

先生

佐賀大学医学部分子生命科学講座  
分子医化学分野 教授

共催

第62回日本臨床化学会年次学術集会

株式会社 シノテスト

# 小児アトピー性皮膚炎における新規体外診断薬の開発

佐賀大学医学部分子生命科学講座分子医化学分野 教授

**出原 賢治** 先生

疾患の診断、疾患の重症度の評価、あるいは治療薬の選択などを目的とした適切なバイオマーカーを探索し、それを基盤として新規の体外診断薬を開発することは、現在の医学における重要な課題となっている。アトピー性皮膚炎の領域においては、視診による所見が診断における主要な基準となっており、客観的に病態を反映するバイオマーカーについては多くは存在していない。その中で、IgE、好酸球、TARC(CCL17)などがアトピー性皮膚炎の診療におけるバイオマーカーとして利用されている。中でもTARCはケモカインの一つであり、2型炎症の病勢を反映するため、患者教育や治療法の判断においても有用なバイオマーカーとして用いられている。しかし、TARCは小児において成人に比べて高値を示し、年齢により基準値が異なる弱点を持っているため、小児のアトピー性皮膚炎においてより優れたバイオマーカーの探索が望まれていた。

我々は、2型サイトカインであるIL-4やIL-13の誘導分子であるSCCA2に着目して、アトピー性皮膚炎におけるバイオマーカーとしての有用性を検討してきた。その結果、SCCA2は重症度に比例しながら、アトピー性皮膚炎患者血清において上昇することを見出した。重要なことは、SCCA2は年齢による大きな変動が見られないため、TARCに比べて小児のアトピー性皮膚炎の診断能において優れている点であった。以上の結果を受けて、SCCA2測定試薬は2019年末にPMDAより製造販売承認を受け、2021年2月1日より小児アトピー性皮膚炎の体外診断薬として保険収載された。

本セミナーでは、SCCA2の特徴、バイオマーカーとしての有用性ととともに、当該体外診断薬の開発に至るまでの過程についてご紹介したいと考えている。